

## 10. 生き生きと働ける勤務体制の実現 — 2交代勤務の導入—

金沢大学医学部附属病院 干場 順子

### 1. 改善の目的とその背景

当院の3交代勤務はシフト間隔が最短「日・深」の6時間45分である。時間外勤務時間も多く、十分な休息が取れないまま勤務している現状である。蓄積的疲労調査でも疲労傾向があることや、就職応募者の中には2交代勤務の希望や問い合わせもあり、あらためて勤務体制見直しの必要性を強く感じた。

平成16年度の勤務体制に関する調査では2交代勤務への関心も見られたが、人員配置に無理があり導入は困難であった。当院は平成20年度「7:1看護」取得予定で、夜勤の人員増加が可能となるため、2交代勤務導入への大きなチャンスと捉えた。しかし、急性期病院での長時間勤務に対するイメージがつかないことによるスタッフの不安や組合等からの反発も予想されるため、十分な準備と検討が必要であると考え今回の課題とした。

### 2. 実行計画

1) 目標 平成20年2月までに2交代勤務導入に向けての準備が整い、試行ができる

2) 方法・スケジュール

看護部勤務体制検討委員会の委員長として以下のような活動を行なった

①意向調査の実施、②2交代試行・拡大、③他病棟への広報、④試行後の評価

9月 勤務体制変更に関する意向調査実施

対象 看護助手を除く全看護職員

内容 現在の3交代勤務の満足度、2交代勤務を含む勤務体制変更の要望について

11月 ・調査結果の報告(師長会議)

・試行を希望する病棟について、実施に向けて準備を整える

試行合意の有無確認、業務内容の見直し、夜勤の条件(勤務時間15:30～9:00、休憩90分、夜勤の翌日は公休)を確認し生活リズムに支障が出ないように配慮

12月 2交代勤務の試行開始、スタッフへのサポート体制確認

1月 試行病棟の拡大、広報活動、福井大学(全病棟が2交代勤務)を施設訪問

### 3. 結果および評価

①意向調査の結果、看護師長(n28)の約8割は勤務体制についてよい方向に変更したいと考えていた。看護師(n496)は3交代に56%が満足していた。2交代勤務の希望は10%で、どちらでも良いは41%であった。2交代勤務の経験がないためイメージがわからず長時間勤務への不安があるが、体験してみたいという気持ちのあるスタッフがいることがわかった。②2交代の試行希望が3部署あり、順次業務内容を整備し試行を開始できた。③2月12日「2交代勤務を語る会」を実施した。試行病棟の実践を聞くことで、未試行病棟の参加者(n52)の9割以上が2交替へのイメージができ興味を持ったと答えていた。④試行病棟は毎日担当師長及び時間外管理師長が夜勤者に対し状況の把握を行い、病棟会議で業務内容等について意見交換を行なっている。

6ヶ月の試行予定で4ヶ月経過したが、大きな混乱やインシデントの報告はなく、3交代

に戻りたいという病棟は出ていない。超過勤務は減少傾向にはあるが、業務改善とともに個人の意識改革が必要で課題が残る。今後、試行病棟の拡大及び試行半年後のアンケート調査と疲労度調査の実施を予定している。